

北海道浜中町津波防災ステーション

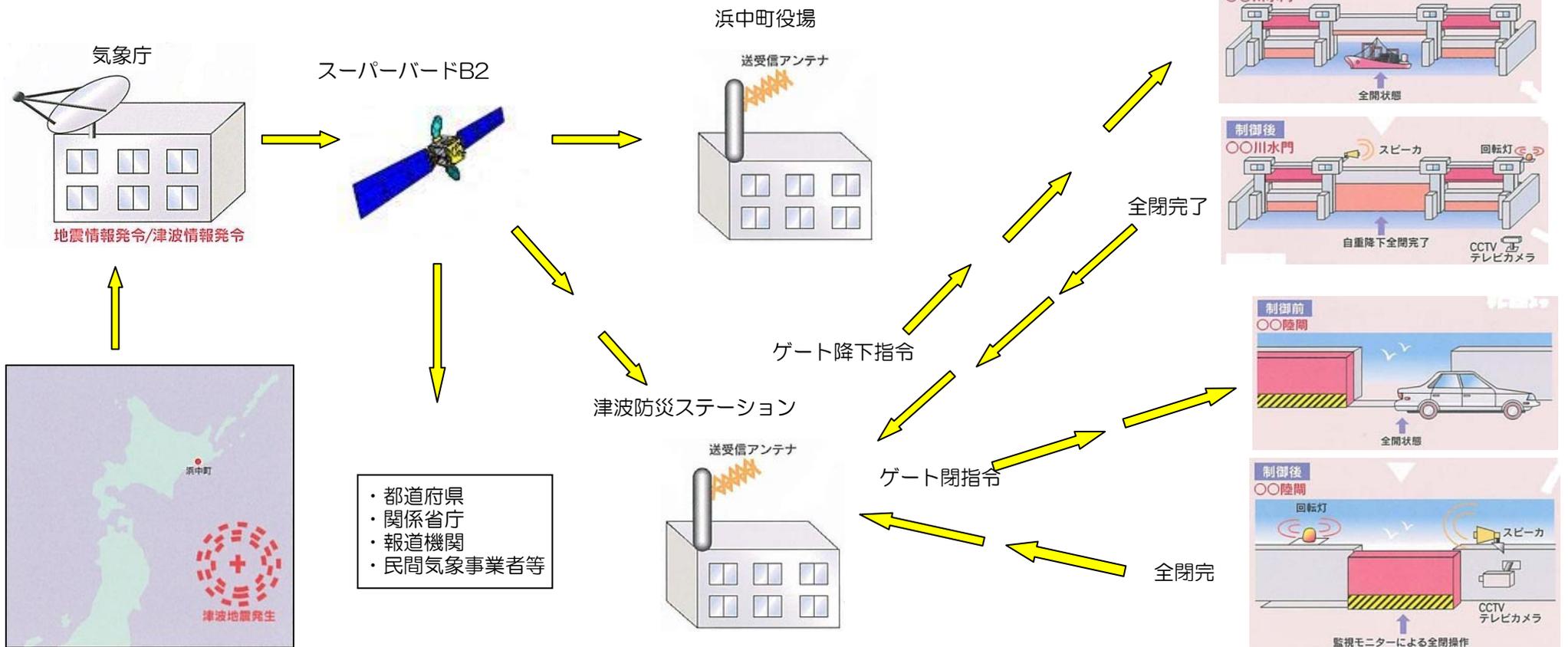
日本は周囲を海に囲まれて山地も多いことから、多くの都市や集落が沿岸域の低地部に位置し、過去に幾度も地震や津波による甚大な被害を受けてきました。

北海道東部に位置する浜中町では、過去に十勝沖地震津波（昭和27年）、チリ地震津波（昭和35年）等により甚大な津波被害を受けました。特にチリ地震津波では、死者11名、被害者2,760名、被害戸数534戸、霧多布大橋流失などの被害を受け、これを機に浜中町の海岸では、地域住民の生命・財産を守るため、堤防・水門・陸閘などの海岸保全施設が整備されました。

しかし水門・陸閘の操作は、津波注意報・警報等発令時に操作員が現地まで直行して行うため、施設の開閉作業には多大な時間を要していました。平成5年の北海道南西沖地震では、奥尻島への津波来襲が地震発生から約5分であったこともあり、操作員の安全確保をしつつ迅速な施設操作を行うことが課題となりました。そのため津波から生命財産を守るため、水門・陸閘を一元的かつ迅速に遠隔操作ができる「津波防災ステーション」を整備しました。



・津波防災ステーションのシステム



・津波防災ステーションの特徴

地震情報・津波情報等を24時間リアルタイムで的確に収集すると共に、それらの情報を地域住民及び海岸利用者へ提供できる。
各地区にある水門・陸閘を、遠隔操作により一元的に集中監視制御できる。

・津波防災ステーションシステムの構成

防災ステーション	1箇所
水門	4基
(国土交通省河川局)	1基
(農林水産省水産庁)	3基
陸閘	4基
(国土交通省港湾局)	4基



津波防災ステーション



琵琶瀬漁港海岸 水門
(農林水産省水産庁所管)



チリ地震による被害のようす

